

♪ 2018年度 **poco a poco** ♪

Nr. 4 2018年5月17日(木) 文責：プファイル・辰巳

赤勝て、白勝て！！

ラジオ体操にダンス、応援合戦に各競技練習・・・フランクフルト連同会に向けて準備する子どもたちの元気な声が、学校中に響いています。今のところ、はっきりしない天候が続いていますが、2週間後の運動会当日には、青空が広がるといいですね。体調を整えて、元気に運動会に参加できるようにしてください。



音楽こぼれ話 <作曲家のこの一曲 ⑬ ドヴォルザーク 「わが母の教え給いし歌」>

先週の日曜日は「母の日」でした。その日だけお母さんに感謝すればよいというものでもありませんが、日ごろ面と向かってはちょっと照れくさい「ありがとうございます。」の気持ちを伝えるよい機会ですね。

さて今回は、その「お母さん」に因んで、ドヴォルザークという作曲家の作品を紹介しましょう。

アントニン・ドヴォルザークは、1841年、プラハの郊外で生まれたチェコを代表する作曲家の一人です。日本では「遠き山に日は落ちて」で知られるメロディを含む交響曲第9番「新世界より」やスラブ舞曲、弦楽セレナーデ、歌劇「ルサルカ」などが有名です。

若いころは経済的に恵まれない環境で、苦しい音楽学生としての生活を送りました。ピオラ奏者として生活費を得ながら、作曲活動を地道に続けていたようです。30代の半ばでドイツの作曲家ブラームスと出会い、自作品を称賛さ

れたお陰で、ドヴォルザークの国際的な名声が高まっていきます。1884年、ロンドンで大成功を納めたドヴォルザークは、後にニューヨーク・ナショナル音楽院の教授として招聘され、新大陸アメリカにも渡航しました。晩年はブラハ音楽院に戻り、62歳でその生涯を閉じた時は、国葬となるほどチェコでも認められる存在になっていました。

そのドヴォルザークが1880年に作曲した「ジプシー歌曲集（作品55）」の第4番に、「わが母の教え給いし歌」という美しい歌曲があります。この美しいメロディを、後にクライスラーというヴァイオリンの名手がヴァイオリンとピアノの二重奏用に編曲しました。ジプシー音楽独特の哀愁を帯びた震えるようなメロディが、ヴァイオリンの音色にピッタリとくる感じですが、独立した曲として、ヴァイオリンの演奏会やコンサートのアンコール曲としても、またドラマのBGMとしてもよく取り上げられます。

YOUTUBEでは、ヨーヨーマの弾くチェロや、クラヴィオリンの音色で、この曲を聴くことができます。



グ

ちょっとだけ 演奏会情報

フランクフルト市内ドルンブッシュ地区にあるヘッセン放送局。この放送局内にも、「HR Sendesaal」と呼ばれている立派なコンサートホールがあります。このホールで予定されている来シーズン（夏休み以降）のコンサートプログラムから、いくつかご紹介します。

9月16日(日) 18時から

江尻南美さん(昨年度の音楽鑑賞会で弾いてくださったピアニスト)とヴァイオリン、ピオラのストリングス・デュオの演奏
ヘンデル「トリオ・ソナタ」、プロコフィエフ「ソナタ」他

11月4日(日) 18時から

ストリングス+ピアノのクアルテットの演奏(江尻さんではありません)
モーツァルト「ピアノ三重奏曲」、シューマン「ピアノ四重奏曲」他

※HRチケットセンター: TEL 069 155 2000

おかあさん
いつもありがとう

